

## 「第142回 松戸市都市計画審議会」議事録

1 開催日時 令和3年8月23日（月）  
14時00分から15時48分まで

2 開催場所 松戸市役所新館7階 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 松戸市都市計画審議会委員

##### ①出席委員（14名）

###### ・市議会議員

市川 恵一 城所 正美 杉山 由祥 鈴木 大介 鈴木 智明 増田 薫 ミール 計恵

###### ・学識経験者

秋田 典子 金尾 健司 椿 唯司 中山 政明 西村 幸夫 橋本 孝司 福川 裕一

##### ②欠席委員（3名）

###### ・関係行政機関の職員及び住民の代表

青木 洋 恩田 忠治 元吉 博保

##### ③会議の成立

17名の委員総数のうち14名の出席により成立

#### (2) 事務局及び議案関係課

##### ①事務局

・街づくり部

福田部長、本多審議監

・都市計画課

湯浅課長、勝間課長補佐、高水課長補佐  
他7名

##### ②議案第1号

・街づくり部

福田部長、本多審議監

・都市計画課

湯浅課長、高水課長補佐 他4名

#### (3) 傍聴者

5名

#### 4 議題及び説明者

- (1) 議案第1号 「松戸市都市計画マスタープランの改定に向けた検討について」  
都市計画課

#### 5 議事の経過

- (1) 開催 ..... (14 : 00)
- (2) 部長挨拶 ..... (14 : 02)
- (3) 事務局報告 ..... (14 : 04)  
委員の出欠状況及び会議の成立 議事録署名人の紹介
- (4) 開会 (議長 福川会長) ..... (14 : 05)
- (5) 事務局議題概要説明 ..... (14 : 06)
- (6) 公開の確認 ..... (14 : 07)  
公開することに決定
- (7) 傍聴の報告 ..... (14 : 08)  
傍聴の申出 5名
- (8) 審議開始 ..... (14 : 11)
- (9) 議案第1号 説明 ..... (14 : 11)  
議案第1号「松戸市都市計画マスタープランの改定に向けた検討について」
- (10) 議案第1号 質疑 ..... (14 : 37)  
議案第1号「松戸市都市計画マスタープランの改定に向けた検討について」
- (11) 閉会 (議長 福川会長) ..... (15 : 48)

#### 6 配布資料

- ・次第
- ・席次表
- ・松戸市都市計画審議会委員名簿
- ・議案書
- ・議案参考資料

## 7 議 事 概 要

### 議案第1号 「松戸市都市計画マスタープランの改定に向けた検討について」

#### 【説明要旨】

#### 都市計画課 湯浅課長

議案第1号「松戸市都市計画マスタープランの改定に向けた検討について」、資料のご説明をさせていただきます。

では先ず、オープンハウス開催結果について、ご報告いたします。お手元に配付いたしました、松戸市都市計画マスタープランオープンハウス開催結果をご覧ください。

こちら都市計画マスタープランを市民の皆様幅広く知っていただき、市民との対話の中から様々なご意見をいただく場を設け、身近な地域の特徴や課題をより深く把握し、改定案を充実させていくことを目的として、取り組みのパネル展示や個別説明を主としたオープンハウスを開催いたしました。

開催日時、場所、来場者数などの詳細につきましては記載の通りでございますが、6月27日、五香市民センターから始まり、東部市民センター、キテミテマツド9階のアトスポットまつど、新松戸市民センターの4会場において、平日、休日合わせ7日間開催し、合計296名の方にご来場いただくことができました。

また当初、市内の大学におきましても、オープンハウスにご協力いただく予定で調整を進めておりましたが、新型コロナウイルスの影響によりまして開催することができなくなったため、千葉大学と聖徳大学において、アンケートのご協力をいただくことができました。千葉大学と聖徳大学では、56名の方にご回答をいただき、アンケート回答者数は会場と大学合わせまして、合計325名となりました。

それでは2ページをご覧ください。こちらは、各会場の様子となります。全4か所の会場で、パネルを自由に閲覧していただきまして、職員との対話の中で、疑問点などにお答えしながら、ご意見をいただいて、記載スペースにてアンケートにご協力いただく形で実施いたしました。

3ページから6ページまでが、実際に使用したアンケート票となりまして、7ページ以降が集計結果となります。

7ページからその概要をご説明させていただきます。回答者の属性等に関する集計結果となっております。中段にあります年代のグラフのとおり、10代から70代以上まで、様々な年代の方にご協力をいただくことができました。

続いて8ページ。就業の有無や、オープンハウスを知ったきっかけなどの集計結果となります。今回のオープンハウスでは、年代の偏りなく、10代の高校生からファミリー世代、70代以上まで幅広い世代の方々にご来場いただいたこと、また、ひとりひとりの滞在時間が長く、アンケート回収率も非常に高く、じっくりと時間をかけてご覧いただく方が多いという傾向となりました。

9ページから14ページまで、こちらがまちづくり全体を紹介したパネルについて頂いたご意見の一覧となっております。ひとつひとつのご意見の紹介は割愛させていただきますが、様々な角度からの賛成の意見であったり、反対の意見であったり、市民目線から多様なご意見をいただきました。

続きまして、15ページをご覧ください。23ページまでが、分野別の方針について、市民の皆様が重要だと思うものについて、ご回答をいただいたものでございます。それぞれの分野ごと

に、簡単にご紹介させていただきます。

まず、15ページ目標1、住宅地分野。こちらでは防犯まちづくりの推進や生活環境施設の整備が重要だと考える方が多い結果となりました。

17ページお願いします。目標2、賑わい・産業分野。キテミテマツドでオープンハウスを開催したということも考えられますが、松戸駅周辺市街地の再生を重要視する方が最も多い結果となりました。

18ページお願いします。目標3、水・みどり・歴史分野。重要視するという回答が最も多かったのが多様な公園緑地の整備・再整備という結果となりました。

20ページお願いします。目標4、道路・交通分野。歩行者空間の整備を重要と考える回答が多い結果となりました。

最後に、22ページ。目標5、防災分野。すべての方針において、大きな差はなく、震災や風水害による被害の軽減を重要視する結果となりました。

24ページをご覧ください。33ページまでが、各地域別の意見となります。回答用紙に、お住まいの地域の良い所、良くない所の欄を設けたため、非常にたくさんのご意見を頂いております。

34ページ、35ページをご覧ください。市民目線での率直なご意見を伺い、今後の改定案にメリハリをもたせるため、松戸市の現在の顔と、今後の顔となって欲しいものについて、お伺いいたしました。現在の顔と、今後の顔で共通して、21世紀の森と広場、戸定邸、松戸駅の意見が多く、江戸川、テラスモールなどの意見も多く寄せられましたが、今後の顔となって欲しいものについては、一番多かった回答が、松戸駅という結果となりまして、松戸駅周辺の魅力や賑わいを向上させるまちづくりへの期待が高いことが伺えます。

36ページをお願いします。36ページから43ページまで、パネル展示全体を通して、松戸市の都市づくり全般について、多種多様な自由意見を頂いております。

44ページ、45ページをご覧ください。オープンハウスの会場では、45ページのように意見記入ボードを設置し、各地域や松戸市全体についての意見を付箋に自由に書いて貼っていただき、職員が聞き取りした内容も含まれておりますが、多くの方にご記入していただくことができました。主な意見としましては、44ページに記載の通りでございますが、本日も実物をご覧くださいるように、この会議室内の前方に掲示しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。地域ごとに拡大した写真が、46ページ以降の写真となっております。

今後、オープンハウスでいただきました、アンケート等でのご意見を生かしながら、都市計画マスタープランの改定に向けて、さらに検討を進めてまいりたいと考えております。

以上、オープンハウス開催結果の報告となります。

続きまして、こちらのパワーポイントの資料又は前方のスライドをご覧くださいながら、今度は都市づくりのビジョンと、都市計画マスタープランの実現に向けての2点につきまして、ご説明いたします。

2ページをお願いします。こちらは次期都市計画マスタープラン構成イメージでございます。これまで、上位計画となります次期松戸市総合計画策定の進捗に併せて、第1章の「計画の前提」、5つの分野で構成された第3章「都市づくりの方針」、第4章「地域別における現況と課題」について、委員の皆様にご議論していただきまいりました。6月議会におきまして、総合計画素案の説明があったところでございますが、この素案に示された将来人口や、将来都市像を受けまして、本日は、残る第2章「都市づくりのビジョン」と第5章「都市計画マスタープランの実現

に向けて」についてご説明させていただきます。

始めに、都市づくりのビジョンについて。

4ページをお願いします。目指すべき将来の方向に対する都市づくりの関わり方について、でございます。上位計画となる次期総合計画では、目指すべき将来の方向として、「松戸の持つ魅力、潜在能力をフル活用し、良好な居住環境の整備、経済の活性化により、人口規模を維持していく」、「子育て世帯のファミリー層や若年層を呼び込める魅力あるまちに」、「健康寿命を延ばし、多世代が快適に安心して住み続けられるまちに」を掲げております。

都市計画マスタープランでは、これら将来像の実現に向けて、都市づくりの観点から見える弱みを解消し、強みを向上させて、松戸ならではの個性や魅力の創出を目指してまいります。

5ページをお願いします。将来都市像と将来人口について。次期総合計画では、将来都市像案として、「元気でおしゃれな自立した都市やさシティまつど。～つよくしなやかにみんなで松戸の新たな時代を創ろう～」を掲げております。都市計画マスタープランにおきましても、この将来都市像を受けまして、他分野と連携した総合的かつ一体的な都市づくりを進めてまいります。また、将来人口につきましては、次期総合計画において示される2030年の将来人口を基に、概ね20年後におきましても、人口50万人規模を維持してまいります。

6ページをお願いします。都市づくりの目標について。将来都市像の実現を都市づくりの観点から目指していくため、都市計画マスタープランでは 次の5つの都市づくりの目標を掲げます。こちらの5つの目標につきましては、今年の2月から4月にかけて、議論していただきましたものでございます。目標の1つ目。多様な住宅ストックの活用や生活利便性の向上、多世代が安心して暮らし続けられる環境づくり、コミュニティの活性化につながる機能や場の充実が図られるよう、安心して住める住まいと地域がある都市を目指します。

続いて7ページをお願いします。目標の2つ目。駅周辺等の都市機能の維持・拡充や、松戸駅周辺の魅力や賑わいのある拠点づくり、新たな産業誘致や雇用創出のための環境が整備されるよう、都市の魅力を感じるまちなかと多様な働く場がある都市を目指します。目標の3つ目。多彩な水・みどり・歴史の資源の保全や活用、環境保全などの多面的な機能を発揮するグリーンインフラの構築を図るよう、水・みどり・歴史に囲まれて生活できる都市を目指します。

8ページをお願いします。目標の4つ目。公共交通の利便性向上や、広域的な交通ネットワーク整備と連携した道路交通環境の整備・改善が図られるよう、誰もが楽しく快適に移動できる都市を目指します。目標の5つ目。自助・共助・公助の連携を基本とし、ハードとソフトの両面から防災・減災まちづくりが実現できるよう、災害から守られた安全な都市を目指します。

9ページをお願いします。将来都市構造について。5つの都市づくりの目標のもと、将来の目指すべき都市のすがたを考えたものが都市構造であり、都市の骨格となります。将来都市構造の構築にあたり、都市空間の骨格となる、これまでの駅を中心とした都市づくりなどの経緯や成果を踏まえまして、基本的な考え方をここにお示しいたします。

1つ目、都市機能の更なる充実、快適な環境づくりの推進として、都市施設や自然環境などの骨格は継承しつつ、拠点や軸を強化する都市機能の更なる充実や、快適な環境づくりを進めてまいります。2つ目、都市の活力・暮らしやすさの向上として、駅を中心としたまちの成り立ちや、都市機能の集積状況などから、鉄道駅等を拠点として整備・育成し、都市の活力や暮らしやすさ等を高めてまいります。3つ目、快適な移動環境の整備として、鉄道や幹線道路のネットワークの維持・形成により、多様な活動や交流を支える安全で快適な移動環境を整備してまいります。4つ目、河川や公園の整備・育成として、河川や大規模な公園などは、都市を印象づける重

要な要素として、環境の整備・育成を図ってまいります。5つ目、コンパクトな市街地形態の維持として、生活利便性や環境・エネルギー問題に配慮して、鉄道駅周辺の高密度な市街地とその周辺の低密度な市街地からなる、コンパクトな市街地形態を維持してまいります。6つ目、多彩な資源の保全・活用として、地域の特性については、現行の都市計画マスタープランにある川の手のまち、歴史のまち、みどりのまちといった要素を継承しつつ、地域の魅力である自然・歴史的資源が全市的に存在していることを受け、多彩な資源を生かし合いながら、市全体の魅力向上につなげてまいります。これらの基本的な考え方を踏まえまして、次期都市計画マスタープランでは次ページのような都市構造図を示してまいります。

10ページをお願いします。将来都市構造についてでございます。将来都市構造とは、都市の骨格を示し、都市機能の集積した拠点や、人々の交流や移動を支える交通ネットワークの軸などの要素から、将来の目指すべき都市のすがたを概念的に示すものとなります。この考えのもと、将来都市構造図では、今まで進めてきたまちづくりの成果なども踏襲し、松戸市が目指す将来の都市の骨格を示してまいります。

11ページをお願いします。現行と今回新たに示す将来都市構造図の比較でございます。赤字でお示ししている箇所が、主な変更箇所となります。北側、変更点①と②で囲っております道路についてでございますが、こちら船橋関宿線は、千葉県骨格を形成する道路として現行の都市計画マスタープランでは、広域幹線道路として位置づけられております。現在においては、流山市では、船橋関宿線を構成する流山都市計画道路3・1・1号が平成22年に廃止され、これに伴いまして柏市では、平成30年の都市計画マスタープランにおいて、柏都市計画道路3・1・1号が、広域幹線道路の位置づけから外れ、都市計画道路としての位置づけに変更されました。このような状況を受けて、次期都市計画マスタープランでは、①部分の位置づけを削除し、②については、柏市での位置付けがあることや広域ネットワーク形成の観点から、近接する都市間を連絡する道路として、幹線道路へ位置づけを変更いたします。続いて、変更点③の北松戸駅周辺についてでございますが、こちらは、松戸市基本構想や現行の都市計画マスタープランでは、広域交流拠点として位置づけられておりました。平成30年に策定いたしました立地適正化計画では、北松戸駅周辺を生活拠点として位置づけております。また、近接する工業団地での現在の土地利用の状況ですが、遊休地がほとんど無い状況ではありますが、遊休地が発生した場合、新規立地企業への支援が行われております。これらを踏まえまして、次期都市計画マスタープランでは、北松戸駅周辺を広域交流拠点から生活拠点・工業拠点として位置づけを変更いたします。

12ページをお願いします。土地利用の方針についてでございます。まず、市街化区域の土地利用方針から。土地利用方針とは、都市構造の要素を基に、住宅や店舗、工場などの建物を適切な場所へ誘導することで、住環境・商業・産業が調和した便利で住みやすいまちへと発展させることを示したものでございます。また、江戸川や21世紀の森と広場などの自然環境への配慮も重要となってきます。そのような地域の特性を配慮した適切な土地利用を目指すことで、メリハリのある都市づくりを考えてまいります。現行の方針を踏襲しつつ、用途地域をベースに土地利用を分類し、2ヘクタール以上の公園を位置づけております。

13ページをお願いします。続きまして、市街化調整区域の方針についてでございます。市街化調整区域の方針につきましては、5月の都市計画審議会で議論していただきましたところがありますが、改めて、簡単にご説明しますと、農地や樹林地などの自然的土地利用は保全を基本とし、災害リスクの高い区域では市街化を抑制するなど、都市計画の原則に基づいた方針となっております。なお、地域特性に応じた土地利用実現方策の詳細な方針につきましては、都市計画

マスタープラン改定後に市街化調整区域のマスタープランの策定により、示してまいりたいと考えております。

14ページをお願いします。現行と今回新たに示す土地利用方針図の比較でございます。赤字でお示ししている箇所が主な変更箇所となります。変更点①。当時、県において、「(仮称)いきいきふれあい健康の里」計画がございましたが、現在では、千葉県の構想や総合計画第2次実施計画から削除されているため、今回の改定にて削除いたします。変更点②。将来都市構造でお示ししたとおり、北松戸駅周辺の広域交流拠点との位置付けを生活拠点へ変更することに伴いまして、中心商業・業務地の位置付けを削除いたします。変更点③。土地利用を検討するゾーンについてでございます。現行の都市計画マスタープランでは、将来人口を約49万人と見込み、目標設定人口を50万人と設定しておりましたが、その差となる約1万人分の住宅地の整備を検討するものとして、土地利用を検討するゾーンを市内7ヶ所に位置づけておりました。現状においては、人口は既に49万人を超え、50万人に近づきつつあることや、市街化調整区域の地域特性に応じた土地利用実現方策の詳細な方針については、都市計画マスタープラン改定後に、市街化調整区域のマスタープランの策定により示してまいりたいと考えていることから、今回の改定にて削除いたします。

次に都市計画マスタープランの実現に向けて。ここからは、実現に向けた基本的な取り組みや考え方などをお示しいたします。

16ページをお願いします。都市づくりの進め方についてでございます。まちづくりの主役である市民自ら自分の住むまちのことを考え、積極的に行動していくという市民自治の考えが進み、市民の役割分担、市民と行政とのパートナーシップによる自治体経営の必要性が一層高まってきております。このため、市民、企業、行政が適切な役割分担のもとで協働による都市づくりに努め、松戸らしさを創出したまちづくりを推進していく必要がございます。また、都市の諸施設の老朽化やニーズの多様化が進むなか、既存ストックを効率的、効果的に使って都市機能を高めていくことが求められます。そのような視点を踏まえ、都市の魅力と価値の向上につながるマネジメントを推進してまいります。

17ページをお願いします。地区まちづくりの推進についてでございます。都市計画マスタープランの各方針を実現するにあたっては、これからのまちづくりが抱える多様な課題に対応するため、身近な地区ごとのまちづくりを推進することが重要です。このため、駅周辺の魅力づくりや郊外住宅地の利便性の向上、密集した市街地の防災性の向上など、重要課題に対応した地区まちづくりを推進し、必要に応じて地元の発意によるまちづくりを推進、支援するための仕組みづくりを検討してまいります。

18ページをお願いします。都市計画マスタープランの見直しについてでございます。都市計画マスタープランは、概ね20年後の将来都市像を見据えて策定いたしますが、概ね5年ごとに計画の進捗状況の確認と評価を行ってまいります。また、社会経済状況の変化や計画の進捗状況、総合計画の改定などを踏まえ、必要に応じて柔軟な見直しを行ってまいります。

以上、都市づくりのビジョンと都市計画マスタープランの実現に向けて、資料の説明となります。

ご議論のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 福川会長

どうもありがとうございました。今日は、今まで個別の課題ごとに、数回にわたり議論をして

きましたが、まとめになります。一気に説明していただきましたけれども、ご議論していただきたいと思います。午後3時頃に休憩を入れて換気をいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑応答をお願いします。今日は決定ということではなく、ご意見をたくさん頂いて、最終的なものに生かしていくという場になりますので、多彩なご意見を出していただければと思います。色々なこととお話ししていただきましたが、まず、オープンハウスについてご質問ご意見ありますか。

### 増田委員

増田です。よろしくお願いいたします。7日間行ったということで、大学はアンケートだけということで、初めての試みではあったと思うのですが、初めてだからどのように評価するかはさておき。本当は、松戸市はかなり広いから、もう少し開催できる場所と回数があれば。例えば五香だと、11時から16時までだけれど、もう一日やれば良かったなと思わなくはないです。職員の皆様は交代で出られているので、その課題があるのですが、効果があったということですが、こういう機会がいずれあったら、再検討して欲しいなとは思いました。

たくさんの方がそれぞれの視点で多くの意見を下さって、これを反映させていくのは大変。結局そうすると意見を聞いただけで反映させられない、市が決めたことに意見が合う人、合わない人がまた出てしまうなど。もちろん全員が一致するわけではないのですが、理想的なことを言えば、こういう意見を、その人たちの年代によって生きてきた年数も時代も違うから、意見も違うし、視点も違う、女性とか男性とか、子供がいるかないかということもあるので、本当はそういうところを、もう少しだれかがイニシアティブをとって意見を、今どきのまちづくりはこういう新しいところにあるのだ、ということ学びながら作っていけるような場があったら、まちづくりの一つでもあったのでしょけれど、という感想を私は持ったのですね。私の意見でした。

### 福川会長

どうもありがとうございます。色々開催の構想はあったのですが、特に大学は出来なくなってしまいましたね。ここに出た意見はそれぞれチェックして都市計画マスタープランに盛り込んでいくと思います。

### ミール委員

日本共産党のミール計恵です。よろしくお願いいたします。いくつか質問と意見です。まず、このオープンハウスをやっていただいたこと自体は良かったと思います。更に、こちらの会派から出したと思いますが、意見を書くような場を、ということで、ポストイットのような方針が取られたと思います。そういった意見が残るといった形で、このような方法を取っていただいたのはとても良かったと思います。ただ一方で、説明会のような場を、私はこの場でも市民の意見、市からの説明をした上での質疑応答の時間を取るべきではないかということをお求めましたけれども、残念ながらそれは行われなかったということで、これは大きな課題というか、そこはぜひやって欲しいという要望です。これまで私は前にも言ったと思いますが、現行の都市計画マスタープランでは非常に丁寧にやっているのです。市民参加の取り組みの概要ということで、24ページにも書かれていますけれども、まずたたき台の公表と意見募集を行っていて、意見

が34名きており、次にたたき台の説明会を12会場で行っている。それで305人参加しています。更に素案の公表と意見募集をしている。閲覧、貸出、広報で特集を組む。それから葉書アンケート、インターネットでの概要の公表。本当に丁寧にやっているのですね。ここでの意見提出数は555名の方が意見を寄せてくれている。その後にもまた素案の説明会を、その意見を基に、恐らく修正・改定をして12会場で開催している。更に公聴会を行う。そして、案の公表と意見募集をする。すごく丁寧にやっているのですね。今回は改正ですから、これは最初だったから、これだけ丁寧にやったのだと思いますといった説明があったのですが、それにしてもこの差は何なのだろうと。先ほどの説明の中で、市民が主役のまちづくりとおっしゃいました。そうであれば、もっとこういう場が、このオープンハウス以外にもあって然るべきじゃないかと。広報に何か載りましたかね。少し改定中ですみたいな案内は出たかもしれませんが、特集号みたいな形で知らされていないと思いますね。先日、市民に聞いたら、都市計画マスタープランの改定など知りませんという感じだったのですよね。ただ、市民が関心ないのかといえば、今回のオープンハウスは非常に多くの方が訪れて、296名中269名の方が意見を寄せてくれている。たくさんの意見が出ているわけですね。決して市民は関心がないわけではないと思います。すごくまちづくりに参加したいと思っている。その市民の意見を、どれだけ松戸市として汲んで都市計画マスタープランを作っているのかというところが、残念ながら疑問などところがあります。少なくとも、手続き的には取られていない、残念ながら不十分だというふうに思います。その点は指摘をしたいと思います。それから、先ほど増田委員からも出ましたが、たくさん出た貴重な意見を、どのように反映させるのか、質問です。だいぶ終盤になっていますけれども、ぜひこれを生かして欲しいということを申し上げます。どのように生かすのかということをお教えいただきたいと思っています。

## 福川会長

ありがとうございます。では、事務局の方から。

## 都市計画課 湯浅課長

今回、オープンハウスを行うにあたって、多くの方に来ていただきまして、良かったなと思っていることが、年代の偏りがなかったことです。説明でも申し上げたように高校生から、ファミリー世代も多かったですね。それから70代以上の方まで幅広い世代の方に来ていただいた。また、ミール委員もおっしゃったように、アンケートの回収率も高く、中々こんなに回収率が高いことは無いと思うのですけれども、一人一人の滞在時間も長く、1時間、2時間とおられた方もいらっしゃいました。そういった多様な世代の方と対話できたこと、これは先ほどパワーポイントの資料で、総合計画の素案についてご紹介させていただきましたけれども、「子育て世帯のファミリー層や若年層を呼び込める魅力あるまちに」とか「健康寿命を延ばし、多世代が快適に安心して住み続けられるまちに」といったようなまちを目指していく上で、様々な年代の方々と対話できる機会を作ったということは有意義であったと思っております。

また、気づきの点では、このような場を作っていただけて良かったとか、もっとこういった機会を増やして欲しいといったご意見も頂いているのですね。そういったご意見を頂くと、やはり市民と一緒にまちづくりを行う重要性を改めて認識させていただいたといった、そういった気づきもございました。

ご質問のところなのですけれども、今回本当にたくさんのご意見を頂きました。ご意見を頂い

た中で、記載のとおり本当に色々なご意見で、例えば賛成もあれば反対もある。真逆の意見もある。当初、集計する時に、ある程度まとまりをもってご紹介しようと思ったのですが、あまりにもたくさん頂いていく中で、良いも悪いも全て載せさせていただいています。全く同じ意見はまとめさせていただいています。また、明らかな誤字等については修正させていただきましたけれども、基本的には全て載せさせていただいています。こういった貴重な意見をどのように生かしていくのかについては、大変難しいところではあるのですが、このオープンハウスの結果については、今日報告して終わりというつもりはありません。今後、素案等を作成して、皆様に議論していただく中で、こちらの意見を、今後、都市計画審議会の中で、都市計画マスタープランを最終的に決定していかなければならないのですけれども、その中での判断材料の一つとして取り扱っていただければいいなと考えております。以上でございます。

### 福川会長

10月、11月に予定されている都市計画マスタープランの検討の中でも、その辺の結果がまた出てくるということで。前は都市計画法の改正直後で、日本中で都市計画マスタープランを作るために色々なことが行われていたが、今回はスマートになって、オープンハウスというような形が取られたのではないかと思います。

他にいかがですか。

### ミール委員

追加でよろしいでしょうか。素案の中で取り入れていきたいというご意見を頂いて、ありがとうございます。それは評価できると思います。ただ、やはり遅いかなと。もっと初めの段階で出してくれれば、もっと取り入れようがあるのかなと思うのです。これだけたくさん意見だと、賛成もあれば反対もあるということで、なかなかまとめるのも大変だということですが、もっと早い段階での市民参加というのを、今後はやっていただきたいという希望です。

### 福川会長

どうもありがとうございました。継続的にやるということですね。

他に、オープンハウスと市民のご意見に関してはありますか。無さそうなので、次に進みます。また何かございましたら言っていただければ。

都市づくりのビジョンのところにいきたいと思います。審議の仕方を、個別の方針についてご議論していただいて、それからビジョンをまとめるという順番でこれまで進めてまいりました。最初にビジョンを示して、あとから個別の方針について議論するのではなく。ただ、都市計画マスタープランの構成としては、都市づくりのビジョンがあつて個別の方針が書かれるということにはなりますけれども。今回は、これまでご議論していただいたもののまとめになります。それではどうぞよろしく願いいたします。

都市づくりのビジョンのところで、ご意見ご質問があればどうぞお出しください。これだけ広いと言いくいと思いますので、まずビジョンと目標のところについてご意見があれば、よろしく願いいたします。

### 杉山委員

杉山です。よろしく願いいたします。5ページの将来ビジョンの将来都市像案についてなの

ですけれども、「元気でおしゃれな自立した都市やさシティまつど。～つよくしなやかにみんな  
で松戸の新たな時代を創ろう～」の言っている意味が分からなくてですね。元気、おしゃれ、自  
立、優しい、強く、しなやか、この言葉を選んだ理由というか、それぞれどういう思いを込めて  
いるのか。形容詞が多い。ここで一回も議論したことがないところなので、なんでこうなったの  
か教えてください。

#### 都市計画課 湯浅課長

こちらのワードですが、6月議会で示された総合計画の素案の中から、同じ将来都市像を都市  
計画マスタープランでも掲げて、まちづくりを行っていこうという意味で、こちらに載せさせて  
いただいています。

#### 杉山委員

それぞれこの言葉を選んだ意味があるのではないのかなと思って聞いているのです。例えば、  
元気、おしゃれ、自立、優しい、強く、しなやかという言葉を選んだ理由ですよね。他にもたく  
さん言葉がある中で。それは何か目指すものがあって、僕らは選んでいると思っっているので、選  
んだ理由等は。

#### 福川会長

確認だけれど、総合計画の素案にそのまま載っているのですか。

#### 都市計画課 湯浅課長

そのまま載っています。我々の解釈、考え方をお話させていただくと、例えば“おしゃれ”と  
いう言葉は、中々定義しづらいかなと思います。おしゃれの定義は人それぞれだと思うのです。  
我々が考えているのは、ビジュアル的なものを統一的に目指すものでは無いと考えておりまし  
て、先ほども申し上げたとおり、目指すべき将来の方向性として、子育て世代のファミリー層だ  
とか若年層を呼び込むであるとか、多様な世代が快適に暮らして住み続けられるまち。多様な世  
代を、内外から呼び込むような魅力あるまちづくり。誰もが居心地が良い空間であると感じるま  
ちづくり、それぞれがそれぞれに魅力あると感じられるようなまちづくりを目指すものという  
ことで理解をして、ここに掲げさせていただいております。

#### 福川会長

総合計画との関係との問題でもあるのですが、これが都市計画マスタープランの一番最初に  
出る将来都市像となるわけですね。慎重に考えてほしいですね。

#### 秋田委員

私も同意見です。事前説明の時にこれを聞いて、これを10年後というのはちょっと恥ずかし  
いというか、意味が分からないなというふうに思いました。しかも、自立した都市というのは、  
総合計画の状況がよく分かっていないのですけれども、政令市を目指すという意味なのかなと  
いうふうにとれてしまうのですね。なので、何を狙っているのか。そのような認識でよろしい  
でしょうか。

## 都市計画課 湯浅課長

例えば、自立した都市については、賑わい・産業分野でいうところの新たな産業の誘致、雇用の創出。いわゆる担税力のアップであるとか、そういうところに降りてくるのかなと思っております。

## 秋田委員

説明しないとわからないような言葉だと、中々適切かどうかの判断が難しいと思うので、専門の人が見ればそういう判断もあるかと思うので、目指しているならそれでもいいのですが、そうでないなら杉山委員から指摘があったように、正確に伝わるような内容にした方が良くないかと思いました。

## 杉山委員

補足です。計画なので、ある程度アバウトになってしまうのは仕方ないし、印象の部分もあるのかなと思いますけれども、メッセージ性の問題で、言葉を並べただけになっているというか。おしゃれなまちにするために、何が必要になるのか。下から検討した意味というのはそこにあると思うので、それがこのように文字になって見ると、残念だなと。もう少しメッセージ性のある、キーワードだけでもいいと思うので、文章にしなくても。その下に説明が付いている方がいいと思います。横文字にすると、皆さんはアレルギーもあるから難しいかもしれないけれど、強く、しなやかというのは、防災・防犯のイメージが付きやすいけれども、総花的な表現ですよ。松戸市の課題で何が掘り起こされて何を解決するといったメッセージが伝わるというような一文を都市像にしないと、中々理解が進まないのではないかと思います。

## 福川会長

議会の方で、総合計画について議論をしているのではないのでしょうか。

## 杉山委員

まだ出てきたばかりですけどね。これは、聞いたら決まっていたね。悪いとは言っていないんですが。何か考えがあるのかなと思って聞きました。

## 福川会長

本当は中身が重要かなと思いますが、最初に出てくるワードも重要かなと思います。他の方、ご感想ありますか。

## ミール委員

杉山委員が指摘した点については、私も同じような感想を持ってしまして。例えば、これまでの都市計画マスタープランの目標は、「住んでよいまち・訪ねてよいまち」なので。住んでいてもいいけれど、外から来る人にとっても魅力あるまち。だから外からも人が来るということで、すごくわかりやすい言葉なので。けれど、今度の案は、「元気でおしゃれな自立した都市やさシティまつど。」優しいと言いながら自立しろよと言われているのかなと、ちょっとよくわからない。おしゃれなというのも表面的な言葉で、まちづくりにはどうなのだろうかと私も疑問に感じました。以上です。

## 鈴木（大）委員

一つだけ意見を、同じところなのですけれども。将来都市像はこれでも良いのですけれども、大枠の戦略やビジョンであれば、それを達成するための手段というのが、次のページからの目標に繋がると思うので、例えば元気でおしゃれな自立した都市というのが、目標の中に紐付いてあれば良いと思うのですけれども。総論としての目的があって、個別の目標がある。戦略があって、個別の戦術があるわけであって、それが紐付いていれば少しは理解できるかなという意見です。

## 福川会長

ありがとうございました。

## 西村委員

西村です。これは総合計画の方でのビジョンになるのですよね。総合計画の方できちんと議論して欲しいと思います。それから、それぞれの言葉で何を言おうとしているのかというのは、きちんと定めないといけないと思います。先ほど話に出た自立したというのが担税力の話であれば、そういう意味で使っているのだと。おしゃれというのはどういう意味で使って、都市を考えた時に、どうなったらおしゃれだと言えるのか。例えば、魅力があるから人が来てくれるのだということなのか、とか。この辺に関して整理してもらって、この言葉で表現するのはこういうことなのだと出てこない、ぼんやりしていると言われてしまう。総合計画でやるのであれば、総合計画できちんとやってからこちらに持ってきてもらいたいなという感じがしますけれど。

## 福川会長

市から出てきたものを丸呑みするのではなく、良いアイデアを出していただければと思います。議論が中途半端ではありますが、5分休憩を入れたと思います。

～休憩・換気～

## 福川会長

再開します。4ページと5ページの将来ビジョンについて意見が集中していましたが、これでよろしいですか。

## ミール委員

3点指摘したいです。まず、良好な居住環境の整備のところ、前回も言っているのですが、整備も良いのですが、そこにアクセスできない人もいます。住居を失ってしまう人もいます。そういう人達をどうしていくかという視点が重要なと私は思っているのです。高齢者や障害者、若者、シングルマザー、非正規労働者の方々が、住居に本当に困窮している状況があるわけですから、誰もが良好な住宅に住めるための施策に、必要性をしっかりと市が認識して、私は公営住宅の建設を求めていますけれども、住まいというのは人権だということを認識していただいて、ぜひ明記していただきたいということが1点目です。

それに関連するのですが、住宅ストックを生かすというところが、都市づくりの関わり方ということが同じページに書かれています。どういうふうに生かすのか。お金があれば、どのようなものでも色々とできるかもしれないけれども、お金が無くて生活に困窮している人達への、例えば家賃補助の制度といったものを作っていく。そのような施策を質の向上と合わせて、誰もが良好な住まいを確保できるようなことが、市の責任というところを明確にさせていただきたいという点です。住居の点が弱いと思ったので、指摘させていただきます。

最後に、4ページにブランド力の向上というのが大きく丸で出ているのです。これは良いのですけれども、新たなものを創出というのはなかなか難しいと思うのです。既に松戸には、例えば、梨や矢切ねぎは既にブランドとしてあると思うのですけれども、こういったものをどんどん生かしていく、充実させていくというところに重点を置いていただきたいなど。そのためには、それを作る農地をちゃんと守っていくということですね。そういうところを明確に示したらどうかという意見です。以上です。

### 福川会長

ありがとうございました。ブランド力については、こう見ると、今ある資源を生かそうという立場に立っているのではないかと思いますけれども。

次の目標まで含めまして、ご意見ありましたら。目標の一つ一つに関しては、議論したものにしますので、その時に頂いたご意見はたくさんありますけれども、それを総括するようなものになっております。

### 増田委員

経済の活性化により人口を維持していくというところなのですが、視点が私と違うからどう言っていかわからないけれど、経済の活性化によりというのは、どんな意味になるのですかね。例えば、日本全体で言ったら人口が減るとか、外国の方が入ってきて人口は維持されたとしても、どういう形で全体での活性化が起こるのか。それが松戸に、どのような影響を与えるのか。そういうイメージは、何か持って書いているのか。書くのは書けるのだけれども、どうやるのかなとは思いますが。

### 福川会長

すみません。今、目標2の話をされていますかね。

### 増田委員

将来ビジョンの4ページのところ、良好な居住環境の整備というところの次ですね。松戸市は人口ビジョンですべて人口が減らないよ、ということ掲げているのですけれども、世界では経済の活性化というよりは、縮小という言い方が適しているかわからないけれども、今までと同じでは無いというのは、世界のコンセンサスを得ているのではないかなと思ったので、これはどういうことをイメージしているのかなと思いました。質問というよりは意見になると思います。

### 福川会長

ありがとうございます。経済の活性化という言葉はずっと使われているが、もう一工夫無いのか、ということですね。新しい時代に即応した表現があるのか、あるいは、目標がないのかとい

う意見だったと思います。

ご意見を伺っていきましょう。もちろん今の意見に対するご意見でもいいですが、いかがですか。

では次に都市構造ということで、こういった目標を松戸の都市の中に落とし込むとどうなるのかというのが、図面で示されています。この辺に対して、ご意見ご質問ありますか。

## 西村委員

将来都市構造についてですが、都市づくりの目標というのは、ある意味一般的な議論になるので、どの都市でも適用しそうなことになるのですが、将来都市構造というのは、松戸市の地形やインフラの中で考える場になるので、すごく大事な絵だと思うのですね。例えば、11ページを見ると、前の都市マスから今回の都市マスで表現が変わっているわけですよ。表現が変わっているというのは、松戸の都市の捉え方を変えて考えているということだと思うので、なぜ変わったのかというのを、もう少し説明できるようにしておいた方が良いと思います。例えばですけれども、今回の新しい都市構造図は鉄道網が割と強く書いてあって、そこに拠点の色がついているわけなので、おそらく考え方として、鉄道の駅を拠点にしながら、それがネットワークしているというところに意味があるのだということを、前に比べてはるかに強く打ち出しているわけですよ。後は、その拠点を幾つかの性格分けしているわけです。川や斜面緑地の部分のところの色が強く書いてあるのは、こういうところを大切にすることだと思うのですよね。つまり、今回の新しい都市構造図をこういうふうに読むのだと。こういうふうなことが松戸にとって大事だということをメッセージとして伝えているのですということ、ちゃんと説明できないと、ただ絵が二つあって、そういうふうに書きましたと捉えられてしまうともったいないと思います。なので、説明の段階でもきちんと言えて、それを市民にも伝わるような形にすることが大事ではないのかと思います。以上です。

## 福川会長

事務局側は何かありますか。

## 都市計画課 湯浅課長

西村委員、我々が説明したかったことを説明していただき、ありがとうございました。

## 杉山委員

将来都市構造と前の目標から全て含めてなのですけれども、やはりポストコロナという観点はどう生かされているのかというのを聞きたいです。これだけ大きなインパクトを与えて、ある意味、社会構造もそうですし、我々市民の感覚も一気に変わったわけですよ、これだけ長引くと。おそらくこの先も結構続くでしょうと。それが、長期計画を作っている最中に起こって、市民のご意見も聞きましたという中で、何か影響を与える部分はないのでしょうか。

## 都市計画課 湯浅課長

この将来都市構造図の中では、先ほど西村委員がおっしゃっていただいたように、今後、コンパクトシティ・ネットワークの考え方をもって、拠点を重視している図になっているのかなと我々は考えているのですが、ポストコロナの部分においては、中々ここからは読み取れないもの

になっているのかなと思っておりますが、素案の本編の中で脅威の部分であるとか、そういった部分で載せていこうというふうな考えはございます。

### 福川会長

今まで、コロナが収まったら元に戻るようなイメージで、この中では特にコロナの影響のことは書き込んでこなかったけれども、10月、11月あたりにどうなっていくかということを考えていくと、都市計画マスタープランで少しも触れないわけにはいかない感じがしますね。都市がコロナでどう変わるのかということを考えなければならぬけれども、不透明な部分がたくさんあります。そのような中で、松戸の都市計画はどうあるべきかと考えた時に、安全で且つ住みよいまちを作るという基本をどこまできちんとやれるのかなということではないかなと思っております。もしそういうことであれば、きちんと記述していくことは必要かもしれません。

これに関して他にご意見ありますでしょうか。

### 杉山委員

市民の立場から周りの人のことを見ていて、松戸市くらいの都市は、コロナによってすごく人の数が増えたのですね。今までは、日中は都心に働きに出ている人が多かったのが、特に緊急事態宣言の中だと顕著にわかるのですが、人が逆に増える、滞在する人が増える、働き方も変わる、更に言うと空間の取り方というのも完全に意識が変わったという中で、そういうものを都市づくりの中にどうやって生かしていくかという記述が無いと、何となくこのままだと、すごく前時代的な計画に感じちゃうのですね。そこをきちんとメッセージ性として伝える文言を記載して欲しいと、私は思います。

### 福川会長

コロナの関係で人が増えるというのは、そうですね。それはいい方向であるということ、上手に捉えていくということ、前向きに捉える方が良いですね。

土地利用の方針まで含めて他の方、いかがですか。

### 増田委員

9ページの4番の河川や公園の整備・育成というところと、将来都市構造の中の川のレクリエーションと、ずっと懸案だった矢切のところは、どういうイメージをしていますか。

### 都市計画課 湯浅課長

現行の都市計画マスタープランでは、千葉県により整備が構想されていた「矢切広域公園」を拠点の施設として想定していたということがございます。こちらは自然的資源や観光資源を生かして整備・育成していく。現時点においては、県の広域公園の構想はなくなっていますけれども、矢切地区における豊かな自然資源であるとか観光資源、これを活用していくということについては、考えは変わっていないものだと思います。この将来都市構造図にお示しさせていただいたとおり、こちらの矢切地区というのは、川の軸であったり、緑の軸であったり、交通の軸であったり、これだけ色々と交わる場所って無いと思うのですね。拠点を設定していくにあたっては、例えば、松戸駅では広域交流拠点、内外から人を呼ぶための中心的な拠点として位置付けておりますし、その他の駅では生活拠点として位置付けておりますけれども、矢切地区とい

うのは、松戸市において非常に特徴的な性格を持った拠点であるというふうに考えておりますので、拠点としての位置付けは、今後も引き続き必要だなというふうには考えております。

#### 増田委員

拠点としての捉え方とか、どういうふうに松戸のイメージになるのかというのはまだわからないけれど、とりあえず、今はその説明でわかりました。けれど、少し不安が残るような感じもしますが、とりあえずありがとうございました。

#### ミール委員

関連して矢切の地域について、14ページの土地利用の方針のところ、今回、大きな変更点がありました。変更点3ということで、矢切の土地利用を検討するゾーンが削除されていますよね。これは大きな変更点だと思うのですね。次に市街化調整区域の方針のところ、農地、樹林地、江戸川河川敷等の自然的土地利用は保全を基本とするというふう、一応保全が謳われているのですが、一方で2行下には、開発を検討する場合は、市街化区域内への編入を原則とするということで、開発の可能性も残しているのかなど。さらに言えば、地下鉄11号線の計画というのは、この土地利用方針図の中にも残っているのですが、どういうふうに利用していくのか。地下鉄の利用じゃなくて別の利用なのか。相互の計画があると思うのですが、一方で守って欲しいという意見もたくさんあって、その辺の市の方針というのはどうなのですかね。何度も私は質問して、議会で質問しても、都市計画審議会でと言われてきてここまで来たのですが、どうなのでしょう。

#### 都市計画課 湯浅課長

今回、現行の土地利用方針図との違いで、土地利用を検討するゾーンを削除した理由についてですが、現行の都市計画マスタープランでは、将来人口を49万人と見込んでおりました。目標人口の設定が50万人。その差となる約1万人分の住宅地の整備を検討する土地として、矢切だけではなく、7つ設定してあります。今回、検討するゾーンを削除したというのは、今現在において、人口50万人に近づきつつある。それから最近の概念として、浸水想定区域には人を呼び込まない、開発の許可が厳格化されてきているというところも踏まえまして、総合的に踏まえて削除したということがあるのですが、矢切に限らず、様々な調整区域がありますが、そちらの調整区域の細かな方針については、場合によっては都市的利用をする区域であるとか、保全する区域、そういった区域を明確にしていく作業を調整区域マスタープランでしていこうと考えていて、次期都市計画マスタープランでは、松戸市全体の調整区域の原則的な方針を示させていただくということで考えております。

#### ミール委員

保全という方針は、現時点でも示されないということで、全体のバランスの中で必要があれば開発していくよという、そのための全部ゼロにしようということなのですかね。

#### 都市計画課 湯浅課長

13ページに書かせていただいたとおりですね。

## 福川会長

13ページに書いてあることが、調整区域マスタープランに繋がっていくということですね。調整区域の中でも既に市街化してしまっているところもある。残っているところは保全していく等のことを調整区域マスタープランで検討していくのだろうと思います。土地利用方針に書かれているのは、1、2、3ありますけれども、大きな柱になるのではないのかなど。

## ミール委員

事前説明でもらったものと今回のものが違って、地下鉄の丸が消えていますね。事前説明で頂いた資料には、土地利用方針図（新）にも地下鉄の丸が付いていますが、今日の資料には地下鉄の丸は付いていますか。この地下鉄の丸は、付くのですか、付かないのですか。そこだけ確認させてください。

## 都市計画課 湯浅課長

どちらにどう示していくのか、将来都市構造の方には載せてあるのですけれども、これについては精査させてください。地下鉄の延伸については、計画としては残っておりますので。

## ミール委員

土地利用方針図には載るということですか。

## 都市計画課 湯浅課長

どちらかに統一するかもしれませんが、現状だとお答えができません。これから精査させていただきます。

## 福川会長

よろしいですか。他の方いかがですか。

## 秋田委員

12ページの土地利用の方針の北千葉道路沿いのところが斜線になっていて、色から見ると沿道市街地かなと思うのですけれども、凡例が無くてわからなかったの、説明お願いできますでしょうか。

## 都市計画課 湯浅課長

凡例が無かったのですが、秋田委員がおっしゃられたように沿道を表したものになります。

## 秋田委員

わかりました。分かりづらいなと思いました。

## 都市計画課 湯浅課長

こちらも整理させていただきます。

## 福川会長

沿道なので、今後考える必要があるということで、どう考えるかはまだ示していないという状態なのでですね。

#### 都市計画課 湯浅課長

福川会長からありましたように、今日で決定するわけではありませんので、頂いたご意見を精査させていただいて、今後に向けて整理させていただきたいと思います。

#### 西村委員

土地利用方針図の新旧を見比べると、先ほどの将来都市像の図はそれなりの主張があって良いのですけれども、逆に土地利用方針図は現況の用途地域の図に近くなっているのですよね。むしろ主張していない形になっているのですけれども、一体どうしてでしょうか。現行の都市計画マスタープランの図は、将来の土地利用の変更についても書いていけば、その土地の土地利用がどういう方向なのかということも見えますけれども、この土地利用方針図ではあまり見えないのですね。これは、あまり変えないということを言おうとしているのですか。

#### 都市計画課 湯浅課長

こちらは用途地域をベースに考えているのですけれども、こちらの意図としては都市構造図にありましたように、拠点が、今一番人口密度が高いところ。そこから緩やかに人口密度が低くなっていくようなものをイメージして作っております。

#### 福川会長

これは都市計画マスタープランの中で、土地利用を示すということはどうやるかという指摘というか、都市計画マスタープランで用途地域を鮮明に出す必要があるのかどうかということですかね。難しいところですね。都市計画マスタープランはあくまでも方針を示すものであるもので、白地に絵を描いているわけではなく、既にゾーニングされているので、それを無視するわけにはもちろんいかない。ただ、それを出すと将来の構造を描こうとしても、前のままのように見えてしまうという問題は一貫してあって、これをどうするかは西村委員と秋田委員のお知恵を貸して頂かないと難しいところですね。私も少し検討します。

他にご意見がありましたらどうぞ。

#### 杉山委員

細かい話なのですが、12ページの大規模公園・緑地というところで、東松戸の大きい緑地はお墓なのですよね。しかも東京都のお墓なのですよね。これを大規模公園・緑地として表現して良いのかなと気になりました。

#### 福川会長

この審議会でも、八柱霊園の変更は東京都の都市計画ということですが、墓地はたいてい公園の範疇で公園屋さんが作っているのですね。一応、緑地も多いし。

他にいかがでしょうか。次に15ページからの都市計画マスタープランの実現に向けてというところで、ご意見ありますでしょうか。これはマスタープランの最後につくもので、ここに書いたものをどう実現していくかということを書いてある部分です。ここについて、ご意見ご質問

ありましたら、どうぞ。

### 秋田委員

16ページの都市づくりの進め方の部分で、オープンハウスの意見とかの全体を拝見させていただいたのですが、大部分の意見がこういう部分があって良かったということを感じていらっしゃる。やはり行政と市民と企業がどう連携していくかということがすごく大事だと思うのですね。今の書き方が、それぞれ役割を果たしますという書き方になっているので。16ページ内にある絵も、繋がっているのはブランドと課題解決で、その下に行政、市民、企業がいるとなっているのですね。むしろ、行政、市民、企業がどう連携していくかということが非常に重要で、色々議論もあると思うのですが、もし可能であれば、意見とかを見ると、市民活動のための場づくりとか、行政と市民、企業の接点づくりというのがあった方がよいのではないかと。或いは、居場所づくりが必要だと書いていらっしゃる方もいたので、そういうことを書いていただいて、市民活動の場ができて、そこから、地区まちづくりと都市づくりだけでは進まない部分があるので、そのような場があっても良いのかなというふうに思いました。もう少し連携について書いていただきたいと思いました。

個別のことなのですが、既存ストックの有効活用について、別のところにも書いてあったのですが、最近国の方では“都市アセット”という表現をしているので、そのあたりも意識していただければと思います。以上です。

### 福川会長

ありがとうございました。最初のご意見は、オープンハウスを日常化するということ。都市アセットとは何ですか。

### 秋田委員

都市アセットとは、既存ストックなのですが、どちらかというと都市計画で作られた様々なものです。都市公園や再開発で作ったものとか、そういうものを全体的に指している模様です。

### 福川会長

都市の資産をもっと生かしていくということですね。

### 杉山委員

意見を被せてしまって申し訳ないですが、おっしゃるとおりで、海外の都市計画の視察に行くと、だいたいちゃんとした街の都市計画だと、その街の模型があって、その模型は誰でもいつでも見られるようにしてあつたりします。中国でもそうだし、シカゴでもそうだし、色々なところがそうなのです。ところが、日本では書面でしか見られないので、なかなかイメージが沸き辛いということが、一般の市民の方が、都市計画に取っつき辛い部分ではないのかなと。直感的に見られるものがないということですね。森ビルにあるような、ワンフロア全部を使って100分の1の模型を作れというのは、それは数億円もかかるから現実的では無いと思いますが、こういったものを色々な先端技術で見ることができる仕組みというのはできると思います。都市計画って一般の市民に伝えなければいけない大事なもののだけれども、なかなか伝わり辛いもの

を、先端技術で解決していくことが、本当の意味で市民に伝わりやすい都市計画だと思いますので、この辺の工夫ができないのかなということをご提案申し上げさせていただきます。

## 福川会長

貴重なご意見ありがとうございます。

## 西村委員

私も同じような意見をもっています。おそらく、具体的には、フィジカルなある程度のスペースがあると良いと思うのです。今、一番最初にやらなければならないと思うことが、せつかくオープンハウスで意見が出たのですから、こういった意見に対して、今回の都市計画マスタープランではどこまで入れて、どこが課題として残っているのだとか。せつかく出た意見に対して返してあげる場が必要だと思います。そういうことによって、言うとはらかの形で対応してもらえらるれば、次からはもう少し色々な意見が出てくるだろうし、せつかく意見が出ただけけれども、どういうふうに扱われたかわからないとなると、逆に失望してしまうということもあると思うのです。そういう意味で言うと、どういう形でそういう場ができるか工夫の必要があるのですけれども。市民と行政と企業を繋ぐようなものがあるということが、今後の都市づくりの実現に向ける一つの手段ではないかなと思うので、ぜひその辺、工夫をしていただきたいなと思います。

## 福川会長

検討してください。他にいかがでしょうか。

## ミール委員

私も繰り返しの意見になってしまうかもしれませんが、今出た意見と同じで、市民の意見を生かしていくということが一番大事なところ。市民本位のまちづくりということで、課長も最初の説明でおっしゃられていたので、当然お考えだと思いますが、その上でこの書きぶりだと、市民との協働、市民本位の、ということが官民の中に入っているのかもしれませんが、私としては市民本位の、市民が主役のまちづくりというところを、最初に出して欲しいなというふうに思います。市民の意識が高いということが今回のオープンハウスでも分かったと思いますので、ぜひ市民の意見を生かす、それを都市計画にきちんと記すところが大事だと思いますので、それをぜひ認識していただきたいと思います。

一つ質問なのですが、マネジメントの視点に立った都市づくりのところ、関連分野と連携したハード、ソフト両面の総合的な、とあるのですが、この関連分野とは具体的にはどのような分野になりますか。

## 都市計画課 湯浅課長

例えばですけれども、防災分野などではソフト面、例えば、避難行動計画だけでなく、インフラ整備とかにも関わっていきますので、そういった総合的なマネジメントが必要というイメージで考えております。

## 福川会長

福祉が出てきますね。それから文化的な色々な活動。多分そういう意味でしょう。

### ミール委員

私もその辺かなと思いました。そういった分野があまり出てこない。福祉だとか公営住宅、教育文化といったところの福祉を、もうちょっと前面に出されたまちづくりを目指していただきたいなと思います。

### 福川会長

他にいかがでしょうか。後ろの地区まちづくりの推進に関しては、それぞれのコミュニティで色々な市民の活動があったら、それを積極的にお手伝いしていくような体制を作ると。各地区で色々な市民活動でまちづくりをやろうという機運があったら、支援して実現していくということがこの写真にあるところですね。そういう体制を取るということだと思います。

都市づくりの進め方のところについて、これでよろしいでしょうか。全体に対してもご意見が無ければ、終わりにしたいと思います。

議案第1号の都市計画マスタープランの改定に向けた検討について、を終了します。ありがとうございました。傍聴人におかれましては、ご清聴いただきましてありがとうございました。都市計画審議会資料を事務局に返却していただき退出をお願いします。

以上をもちまして、第142回松戸市都市計画審議会を終了いたします。